



2017(平成29)年に開催される「^{えがお}愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただき、24の民泊協会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます。(※紹介順は届け出順です)

中野川民泊協会(中野川／近永地区)



会長 松浦 克典

築45年が経過した中野川集会所の立て直しが決まった頃、舞い込んできた民泊の話。このまたとない機会と、集会所の建て直しという絶好のタイミングに、住民たちはすぐに話し合いの場を設け、民泊協会の設立に至りました。会員たちは、今年4月新しく生まれ変わった中野川集会所で、選手たちと交流する日を心待ちにしています。

「民泊受入家庭班と調理班は、即日即決だった」。この松浦会長の話から、誰もが民泊を楽しみにしている様子が伺えます。また、調理班からは、「ごはんのことは任せときさい」という力強い言葉ももらったそうで、松浦会長は、「中野川民泊協会のチームワークはどこにも負けん」と、笑顔で話していました。

しかし一方で、「何もかもが初めての経験で、不安も大きい」と、話す松浦会長。今回、民泊するのは女子バレーの選手たち。「息子しかおらんけん、女の子とうまく話せるか心配やけど、実家で過ごしているようなゆっくりとした空間をつくりたい」と、意気込んでいました。

小西野々民泊協会(小西野々／泉地区)



会長 兵頭 健生

「民泊を通して、より一層小西野々区の親睦を深め、団結していこう」その兵頭会長の熱い思いに、強く心を打たれた小西野々区の住民たちは、民泊協会の設立を決意しました。

2014年に開催された長崎国体に、兵頭会長の息子さんはボートの選手として出場しました。その際、兵頭会長を筆頭とする応援団が宿泊した保養センターでは、地元の人たちが兵頭会長たちのために、手料理を振る舞ってくれたそうで、「そのときの感動が今でも忘れられない」と、話します。兵頭会長はそのときの体験から、「次は自分の番。選手たちに最高のおもてなしをしたい」と、意気込んでいました。そんな兵頭会長の趣味はカメラ。「鬼北町の思い出がたくさん詰まったDVDを作って、選手たちにプレゼントするんよ」と、嬉しそうに話していました。

「せつかくやるなら、楽しんでやる」この言葉は兵頭会長の座右の銘です。「全員がこの民泊を笑顔で楽しんでほしい」そう話す兵頭会長の目は、輝いていました。